高知くらしの護身術

２２４

住宅用火災警報器

定期的に動作確認を

（２０１１年１０月１８日掲載原稿）

消防法の改正で住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。そこで、警報器について、国民生活センターがテストした結果を踏まえて、購入及び設置する際の注意点をお知らせします。

警報器を誤った位置（壁の低い位置や天井の隅）に設置すると感知が遅れたり、感知できない場合があります。取扱説明書の設置方法に従って警報器を正しく設置しましょう。

空気清浄機やエアコンの風などは気流によって感知が大幅に遅れるので、警報器周辺には置かないようにしましょう。

警報音は家電製品などのアラーム音と混同しないものを選びましょう。また、通常聴力が正常な人が聞き取りやすい４ＫＨｚ付近の音は、加齢によって聴力が低下した高齢者には聞き取りにくい音になります。警報音の聞こえ方のチェックをしてみましょう。

単独型の住宅用火災警報器は別の部屋などでは警報音が聞こえないことがあるので、連動型の設置も検討してみましょう。

光電式の煙を感知する住宅用火災警報器は、ホコリなどに反応して誤作動を起こすことがあります。必ず取扱説明書に記載のある時期に定期点検や警報器のお手入れを実施してください。また、警報器の設置後も取扱説明書は廃棄せず、大切に保管しましょう。

住宅用火災警報器テスト結果については、国民生活センターのホームページにありますので参考にしてください。また、定期的にテストボタンや引きひもを使って試験を行い、正常に働くことを確認することが大事です。警報音を家族みんなで確認し、いざという時に備えましょう。